

【国重要文化財】

旧小諸本陣の保存修理工事が が始まります

重要文化財「旧小諸本陣」は、江戸時代後期頃の建造物で、宿場の機能を知るうえで重要な遺構です。しかし、建設から長い年月を経て、破損・沈下・変形といった現象が顕著になり、倒壊の危険が生じています。

地域の貴重な文化財を適切に保存し、次世代へと継承していくため、保存修理工事を実施します。

重要文化財 旧小諸本陣

- ▶ 指定日 昭和 48 年 6 月 2 日
- ▶ 時代 江戸後期
- ▶ 構造 桁行 15.6 m、梁間 15.3 m
総二階建 切妻造 妻入 棧瓦葺
- ▶ 概要

江戸時代、北国街道小諸宿の本陣と問屋場を兼ねた総二階建の建物です。道路に面した部分は、総二階建の構造を強調するように、二階を太い出桁によって75cm前方に持ち出し、二階壁面には連続した格子窓を設け、その上の妻の壁面に看板を下げるための小型の切妻屋根が付けられています。

なお、本陣の御殿と伝えられる建物は、明治 11 年（1878 年）、佐久市鳴瀬の桃源院に移築されましたが、平成 7 年（1995 年）、桃源院から小諸市に寄贈され、「せせらぎの丘」に再移築しました。

※北国街道…江戸幕府により整備された街道で、中山道から追分宿で分かれ越後（現新潟県）へと向かう交通路。大名の参勤交代をはじめ、佐渡金山の金銀輸送、善光寺参りなどで賑わった。

※本陣…江戸時代、参勤交代の大名、幕府役人などが休泊した宿泊施設。

※問屋場…公用旅行者の荷物や幕府の書状等を、次の宿場まで運ぶことを業務とする公共施設。



保存修理工事の内容

大手門改修時の素屋根建設の様子

今回の根本的な修復工事を行うため、建物全体を覆う「素屋根」を建設し壁や床、造作、そして瓦、屋根を取り外し、柱だけの状態にして建物の傾きを修正します。「素屋根」を建設することで、建物前面の市道における通行の支障とならないよう、建物の位置を移動させる必要があるため、建物を持ち上げる「揚げ屋」、持ち上げた建物を後ろに移動させる「曳家」を行います。工事期間は、大規模な工事となるため数年間を見込んでおり、今年度は、第 1 期工事として建物の一部と門の解体を進めていきます。



解体工事

- ・構造調査
- ・史料調査
- ・復原案検討

復原方針決定

組立工事

- ・公開活用関連工事
- ・環境整備工事
- ・防災工事

完成

旧小諸本陣に関する史料を探しています

旧小諸本陣の今後の修理や活用に生かしていくため、史料調査を進めています。そこで、旧小諸本陣に関連する絵図や古文書などをお持ちの方を探しています。お心あたりのある方は、下記までお知らせください。

☎ 文化財・生涯学習課 文化財・生涯学習係 ☎ 22-1700（内線 2281） ✉ gakushu@city.komoro.nagano.jp